刻む会

たより

No. 48 追悼碑建立記念特別号

振込先

ゆうちょ銀行

長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会

長生炭鉱の

"水非常"

を歴史に刻む会

代表

Ш

武

信

宇部市常盤町一—一一九(宇部緑橋教会内)瓦〇八三六(二一)八〇〇三

口座番号 01590-7-32405

2013. 03. 08

事務局 活動カンパ 悼

碑 建立募金 名 義 http://www.chouseitankou.com

振込先

ゆうちょ銀行 口座番号 01370-9-98603 長生炭鉱水没事故犠牲者追悼碑建立基金

名義

長生炭鉱水没事故犠牲者追悼碑完成! 七十一周年追悼集会報告

の底に放置されたままの遺骨・遺品を遺族のもとに―

長生炭鉱の

"水非常"を歴史に刻む会

内岡

貞雄

かいました。

た。

その後、二〇人の遺族は除幕式

7の場

位牌に

お参りし、

それ

カコ

5 昨

日京都

来

られた四人の在

日のご遺族とご対面

しまし か 5

【関釜フェリー 西光寺訪問】

情 追悼碑除幕式に参列できるという喜びの 再会を喜び合い、ご遺族の皆さんは念願 んと内岡の七人が出迎えました。 金静媛さん、 表をはじめ井上善兼さん・洋子さんご夫妻、 次々と姿を見せられ、「刻む会」から山口代 関釜フ のご様子でした。 二〇一三年二月二日(土)午前八時過ぎ、 、ェリーの出口から遺族の皆さんが 大和裕美子さん、 山田健一さ ぉ 互 表 \mathcal{O}

行は、 まず西光寺 (床波町向坂)

その



西光寺で位牌を前に遺族の皆さん

【午前の追悼碑除幕 艺

ン」にあわせて、 史さんの司会で除幕式がはじまりました。 者を前に午前一一 銘板とピーヤを模した二本の追悼碑が姿を 東京合唱団 天候に恵まれたなか、 (※注①) 八人の歌う「アリラ 時から「刻む会」の島 一八三人の名前を刻ん 約二〇〇人の参 刻

現しました。「刻む会」発足からじつに二二 国遺族会が刻んだ追悼文が朗 行われました。 でした。 追悼碑が完成したまさに 韓国遺族の方々によりチェサが 続いて、 もちろん遺族の皆さん 日本人の追悼文と韓 就され 「歴史的 ました。

年目、

間



追悼碑に集合した遺族の皆さん

牲者の冥福を心 から お 祈 りし 者 きし が 献 た。

まし

た。

そ

 $\bar{\mathcal{O}}$

多くの

をうたう東京合唱 <u></u> (※注①)

岩瀬三郎

団

長

悪魔

の

飽

食

海 7 ように な 年 4 が 0 لح を 親 7 び 底 5 違 感 に 表 内 1 に ľ あ 包 眠 ŧ 対 5 そして ら 地 \mathcal{O} 11 たい。 に、 言葉 れました。 あの冷た に葬らなけ 0 L 家族の遺骨を何としても発掘し て 頑とした注文を発しました。 ~を述べ 過 そし 多くの市民 11 去 て私たち遺族 6 海

の底に放置

したままの

私た

0

歴

反省」

を求め

るとと

それ

は

れるととも 史の

日

本

<u>·</u>政

府

の皆様」に

対する感

謝

例 L

を共有し、 11 私たち かねばならないと思いまし 「刻む会」は会長さん その実現に 向 か 0 て のこ 取 n 0) 組 決 ん 意 で

ればならないの

です」と訴

え \mathcal{O}

はそれを韓

国

てもら

族 遺 ン・ボンス) 族 大韓 から証言等が かのご 民 紹 国 介 遺 さんから来宇され が 族会の ねり、 ありました。 事 その後 務局長孫 た一六名 名 鳳 (T) 秀 **シ** \mathcal{O}

午後の追悼集会

真の む会」 金会長さんは、 ム・ヒョンス)さんが挨拶に立たれました。 スタートになることを願ってやみません。」 悼碑建立 子さんの司会ではじまりました。 れあいセンターに移し、 午 ・後の追悼集会は会場を琴芝シ 史を紡ぎ出 表 一が完成した七 0 山 「刻む会」や「建立委員会. П て遺族会会長の金亨洙 武 信さんが 真 「刻む会」 \mathcal{O} 周年のこの 平 和 を構 まず ル \mathcal{O} 時 井 築する バ が] 上 刻 洋 ż 追

〇遺族 Ī よる 証

1 正秀さん (犠牲者 崔泰元龍 **!•息子)**



苦し な気持ちに 幼 V カ 思 0 た V なります。 が 時 · 先 立 のことを思 ち、 胸 胸 1 に 12 Ĺ 出 針を刺すよう まってある すだけ で

> 日 話 記をし が 過ぎてしまい たくても、 もう半 まし た -世紀以 ŧ

> > 月

思い出 ばなら りました。 ていた病気が という仕事をしながら、 人の家の牛の りません バラバラに住み込み奉公に出なけ ません。 貧しく暮らしていたことしか思 として産声をあげました。 えたその み奉公をしても、 か通うことが出来ませんでした。 私 は は、 九 なくなり、 兀 年 でした。 四 人兄弟だったのですが、 未亡人となった母と、 原 世話をする仕事をし 九七〇 因となり帰らない 年八月に、 その 私 小学校も も八歳 年) 日暮ら 私が二八歳を迎 に、 の時 私 父親 しが精 学期だけ \mathcal{O} 母が患っ か 幼 無 住み込 , 5 なけ 人とな れ 浮 とても L 全員 頃 ば カゝ \mathcal{O} 杯 れ 他

売をし はじめ ラ 力 たからです。 た 場所にでも行って力の 載せて販 ウォンを持 のも ツ その後、 クで生計を立ててきまし た商売は、 ました。 耕 『かけがえ 売 運 私 機 L 0 その てい は米 て都市に そこま そして今にいたる小型ト 自 んのな 自転 くもの 俵 転 るで一 限 車 出 車 を売った二〇〇〇 い私の家族』 でし まし を り \mathcal{O} 皮切りにリ 生懸命にやれ 声を出し 後ろに商品 た。 た。 た。 どん そこで \vdash して商 ラッ が Y

財産が てみれ きが ことも L よう。 は ように立派な職 れ なけ 何 0 出 な 無く、 ば、 らりま ればならなかっ あるわけでも無く、 来 生まれた時 つも無い 転 な 免 私の ひせ 許 い私 ただ生きる為に全てを放棄 W \mathcal{O} くく親に 微業があ でし ような父親 は 試 から父親の愛を受け 験 た。 ŧ \Box た悲痛 るわ i 沭 子 か過ぎな 試 韓 いけでも は 持っている物 供 験 国 で孤 たち で受 他の父親の 語 0 が独な私 無く、 カコ it 読 でし 6 4 Ź 書

のおか 誇らしく思えてしょうがありません。 長し円満な家庭を築い 思 行く歳月よりも生きてきた歳月の の微笑ましい子供達の姿を見るたびに、 『誰よ ませたくあ 私 ったりもするも 私ももう七一歳です。 の子供達には決し 父親の愛』というも を迎えまし げでしょうか、 りも一生懸命』 めりませ た。 \mathcal{O} んでした。 です。 ています。 子供達は立 に働きまし て私と同 せめて最 この先、 $\bar{\mathcal{O}}$ を受け だからこそ 後 じ 生きて 私はそ 一派に成 道を歩 方が た。 た 0 時に 1 多 そ لح

6 り カコ 願 無念の父の死 でも あります。 と思う父を慕いながらペン \mathcal{O} 真実 が世 \mathcal{O} 夢 唯 にでも会え 間 \mathcal{O} \mathcal{O} 希 前 に 明 一であ 6

を置きたいと思います。

② 藤 井歩美さん

クォン ド

孫

とうござい をお借りしてお礼 本当に幸せです。 る素晴らしい日に立ち会あわせて頂 様の長きに渡るご苦労・ご努力が 今日は、「刻む会」の皆様、 、ます。 .申し上げ 權家を代表してこの きす。 ご遺 結 あ 族 実す ŋ け \mathcal{O}

皆

場

が

Ć

0

のは、 あ くべく電話をしたところ、 と宇部市役所にピ 口代表のご連絡先を教えて頂いたことに ります。 本日 昨年六月、 出席させて頂くきっ ピ |] ヤ の詳 ヤに献花をしよう 「刻む会」と山 しい かけとな 所在を聞 0 た

生炭鉱 岡先生 皆様 た。 会にて懇親会を開いて下さり、 六月 が 大変温 7の暑 跡 を案内頂 位 牌 V 中、 \mathcal{O} かく迎えて下さり、 あ うき、 き、 る西 父と二人「 1光寺、 ご説明を頂きま ピ | 刻 そ む 会 ヤ、 緑 \mathcal{O} 後 橋 內 教 \mathcal{O}

人間に

対

パする深

V

深

愛情

ある、

目標にご協力することができるような

 \mathcal{O}

意味で強

人間

になるように頑張りた

悲願

であ

る遺

骨

 \mathcal{O}

引

き揚

げ

とい

う最

後

知り、 犠 闇に葬ら した歴史を掘 でいたの 牲 それ 者 「の魂を慰めて下さってい までは、 筆舌に尽くせな り起し、 長 風 化されてい 強 間 制 連 社会に働きか 皆 行 1 感動を受けま 様 0 歴 ると思い込ん が 懸命に埋 史は完 たことを んけ、 全に 漫

に参加 そのようにたくましく生きてゆくことが 決意を新たにさせられ 昇華させ、 苦しみの経験 く強く前を向 やし生きたご先祖様 られた過酷な環境でも懸命に命の火を燃 を抱いて生きてきた自分を恥入りまし 不尽を感じ 今まで出自を理由として人間や社会の 何よりの \neg 人間 そし 微力ではあっ の尊厳』 させて頂 て本日、 供養であると改めて思いました。 生きていかねばならないと、 つつ がは他 いて自分の人生を切り拓き ても、 ŧ いて、 をこれ以上なく踏みにじ 者 の 素晴 を思うと、 無力感、 への理解 皆様 ご遺族の ました。 5 0) L 姿を拝見 屈した感情 V 私も明 皆さん そして、 優しさに 記 念 \mathcal{O} る 理 日

あ りがとうございました。 つたない挨拶ではありますが、 聴

〇遺 族会二一 年間 の総括と今後の提言

大韓民国遺族会事務局長 孫鳳秀さん

表したいと思います。 を達成されましたことに対し、 血. の賜物であると深く感謝 委員会」そして良識 とができました。これも を遂げたアボジたちに哀悼の 一九九一年三月に発足した「 のにじむような努力で当初の三つの 0 たび追悼碑が竣工され、 ある市民 いたしてい 「刻む会」、「 刻む会」 の方々の 意を捧げるこ 「無念の死」 深く敬意を ・ます。 努力 は、 建立 目 標

かし、 私たち遺族会(一九九二年一〇

> ま 月 ること。 せていただきたいと思います。 しわが故郷 いせん。 (結成) 一つは、 私たちは はこれで事態が収束とは考えてい 日本政府は海に眠る遺骨を発 持ち帰 ここで七つ り安置できるように 0 提 言をさ

や資料および遺品を故郷に持ち にすること。 二つは、 日 1本政府 は犠牲者に対する情 帰れるよう 報

せて日本政 三つは、 府の名をも 犠牲者の名前を刻み、 って刻むこと。 謝罪と併

置 する場所を建立すること。 四つは、 日本政府 は、 西光寺 の位 牌 を安

存すること。 五つは、 を歴史にきちんと刻むため 日本政府は、 長生炭鉱 ا 0 - ヤを保 // 水 非

とともに、 責任で行なうこと。 七つは、 六つは、 精 日本政府による追悼式を政 日 1本政府 神的にも物質的 は犠牲者遺 にも補 族 0 償を行 謝 府 罪 0

思 でも具体的 りませんが、右の諸提言について「刻む会」 基盤に継続させていくことは言うま 今後、 います。 韓国遺族会との交流は な検討をしなくてはならない 信頼 いでも 関 係 あ を

O 朗 読劇 「アボジは海の底

す 掘 持 演 た 者 大 れ 部 が て 仕 分 事 \mathcal{O}

聞 親 \mathcal{O} した。二月三日 つ ら 練 方 習 V 会でも 遺族と たと感じ ぬ Þ て、 Ł で は あ 並 事 \mathcal{O} が 々な 0 る 前 // 感 貇 ま あ る を \mathcal{O}

思いました」。 こそ、 動 意味を出演者はよく理解してい 11 ました。「朗 しました。 真に迫る表情 という感想が 読劇 0 セリフ 動きができたのだと \hat{O} 何 人 た、 からも 0 ひとつ だか 出 b \mathcal{O} 7

劇 でした。 本当に会場の皆さんの 心を揺さぶる朗

して 島大韓民国 代表して辛亨根 課題を内岡 その後、 閉会の挨拶として「刻む会」 ※詳しくは各感想にも述べられています そちらをお読みくださ |総領 追悼集会は来賓紹介と、 が述べて閉幕となりました。 事の (シン・ヒョングン) 挨拶がありました。 の今後 来賓 駐広 を そ _の



なうこと。



感動を呼んだ朗読劇の一場面

ありがとうございました。 れた追悼集会でした。 まうほど、 半の時間 たくさん が経過 0 方 参 列 Z するのを忘れて \mathcal{O} \mathcal{O} 思 皆 が凝縮 本当に

【喜びに包まれた祝賀会】

かしさを感じました。 族との会話はハングルでないとうまく通じ いう満足感が漂っていました。 にこやかで、 などが披露され 局長の澄田亀三郎さんの会設立当初 順一さんの乾杯の音頭、 ハングルを学びましょう。 祝賀会は七○名近くの参加者で賑 この時ば 飯塚のムグンファの会理事 歴史的 かり ました。 は言葉が通じないもど な事業が達成できたと 皆さん、 「刻む会」 参加者 この機会に 韓国 0 どの 初 長 1のご遺 \mathcal{O} 代 \mathcal{O} わ お 顔 事 吉 4 話 務

【午後の懇親会】

「翌日の長生海岸】

取り 遺族 族の皆さんは心からお参りを行ないました。 てきました。 ました。 ラボジー 思いを馳せ 晴 組みをせずには には :天に恵まれたピーヤの見える海岸でご しばし アジョシー」 ておられました。「アボジー その後 遺骨 海の底に眠っている肉親に お 再 遺 れ : び 追 な |品 の声が響きわたり \mathcal{O} · 気持 淖 調 碑 査 1.ち がの前 が湧 発掘 で遺 \mathcal{O}



アボジー!慟哭の叫び

のため、

< てほしいことなどが こと、 玉 の機会を待ちたいと思います。 の皆さんとの懇談会が行われ 時間がなかったことは残念でした。 \mathcal{O} 緑橋教会の二階が一 遺 の組織のこと、 族の方々、 来年も遺族の参加する追悼式 お一人お 追悼碑 2話題に、 杯になる中で、 なりまし \mathcal{O} 維持 人のお ました。「刻 た。 を行 管理 話 遺 ま を 聞 韓 \mathcal{O} 0

【関釜フェリー見送り】

Щ 強 Щ 元 行軍 [口代表、 気で帰国 田さん、金静媛さんたちで行ないました。 韓国ご遺族のお見送りは、「刻む会」から また京都の のスケジュールでしたが、 井上夫妻、島さん、 の途につかれました。 在日のご遺族で長生炭鉱を昨 山内さん、 皆さんお

> 内岡が同行しました。 していただきました。 した。「刻む会」から木岡さん、大和さんと とても参考に なりま

吉さん

日

のことのように記憶しておられる福井

(權道文さんの長男) に現地

案内

九人乗車) 善兼さん、 最後になりましたが、 二日間 を運転された 大変お疲れ様でした。 にわたりマ 韓国ご遺族 「刻む会」 イク 口 バ の井上 ス \mathcal{O} 移 動



坑口付近で当時の様子を語る福井栄吉さん。 事故当時中学生で、当時のことを鮮明に記憶されていた。

追 悼

お父さん!

私達が今日も来ました。

いまだ 地下に居られるお父さんの事を思うと

私達の胸には悲痛しかありません。

お父さん!

私達がたとえあなたの実の息子、娘では無かったとしても

実の息子、娘としてうれしく迎えてください。

私達も実の父親だと思ってお仕えします。

今日、参席した遺族達はほんのわずかではありますが、いつかこの場

所に埋没されている

全ての方々の子孫達が集まることでしょう。

私達全員は

一九四二年二月三日

その日を記憶します。

冷たい風が吹き、雪が降る冬の海辺

恨みに満ちた絶叫と絶望の声だけがみなぎるその海辺

帝国主義の軍靴の音と監視する兵士達の拳銃の音

そして その日

子供達の悲鳴、大きな叫び声、泣き声

お父さんの悲鳴の声

お母さんの苦痛の泣き叫び

あぁ…… ここがまさに地獄だったのです。

長々と続いた歳月をすぐ目の前のあの海の中でもこのようにして居られ 今、 海の底でもこのようにして居られますか?

ますか?

お父さん!

これからは安らかにお眠り下さい。

たとえ故郷の暖かい山河ではなかったとしても

その長い歳月を忘れこれからは安らかにお眠り下さい。

生きて居られれば成されるはずだった全ての事を忘れ 私達に任せ

安らかにお眠り下さい。

なぜならば

私達はその日を正確に記憶し

この場所に一緒に居られる多くの人達が

その日を正確に記憶しているからです。

私達がお父さん達を故郷の地に帰す事が出来る力と知恵を下さいますよ

お父さん!

うに。

故郷の地は私達の憩いの場ですから

その場所が微力で窮屈だとしても

そこではもう少し安らかに休むことができるでしょう。

お父さん!

その日が来れば

本当に安らかにお眠り下さい。

二〇一三年二月二日

日本長生炭鉱 犠牲者 大韓民国遺族会

参加遺族一覧 敬称略

会長 禁學深

集件者: 余四朗 (甥)

副会長 楊 安

犠牲者:楊壬守(甥)



事務局長
※※※
孫鳳秀

犠牲者:孫長平(孫)



全場院(左)

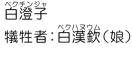
犠牲者:全聖道

(左・息子、右・孫)



シンジェボン中載鳳

犠牲者:申龍業(息子)



ソンドクネ宣徳禮

犠牲者:李太榮

(甥の妻)



*ムヘド 金海道(左・兄)

金宗道(右•弟)

犠牲者:金學洙(息子) 金英根(甥)



李鍾順

犠牲者: 朴三乭

(息子の妻)



がかまざます

犠牲者: 朴南石

(息子)



がからずが

犠牲者:朴相允(甥)



程記ろ

犠牲者: 崔泰龍(息子)



野玉花

犠牲者:張泰俊

(息子の妻)



がまだす

犠牲者: 崔陽海

(息子•故:崔泰雄

※の妻)



過去、何度も来日されていたが亡くなられたご遺族

※故:崔泰雄

犠牲者: 崔陽海(息子)



故•金鎮晃

犠牲者:金東煥(息子)



《在日で参加されたご遺族》

犠牲者: 耀道文(息子•孫•曾孫)

た。 権主文(甥・・・)



左から 藤井潔(孫)・藤井英子(孫の妻)・福井栄吉(息子)・藤井歩美(曾孫)

報

朝日新聞(山口版)2013年2月3日(日)



日、炭鉱の遺構がある床放地区で開 の大規模な水没事故で亡くなった犠 かれた温伽集会で除得された。 聖者のための追悼碑が完成し、2

類む会によると、事故で亡くなっ

された着体牌一字部市床製1丁目 □長生炭鉱事故の追悼碑除幕

を続け、土地を購入して表現した。 の要望を受け、刻ひ会が犠牲者の名

前を刻んだ誘連立のための蘇金指動 半島出居者。 追旋碑は、韓国開放版 た1000人のうち、107人が明鮮

皮膚炎を起明。

ニックがかぶれ、薬

心が高まっているという。事故でお 解に向けた本当の第一参になれば、 山口武信さん(81)は「関国の相互選 勝与がないことに基胆した様子だっ ん(行)は、碑建立などに日本政府の じをしてした義旗会会長の金華術さ ても感謝している」。 たが、「市民団体のみなさんにはど 水殻事故については韓国内でも関 数な会代表の

学部市の旧長生改鉱で1942年 悼

0人以上が表列した。 でおり、今年は遺成や支援者らりの 集会は市民団体「長生民能の

年から韓国の遺族を招いて毎年開い 非常, を歴史に刻む会」が1992 12版 2013年(平成25年)2月38 (日曜日)

軽化した。 名標と配花台を設け、操作 平保会長(T/)は「磁激で 式後、韓国遺族会の全 の看板を掲げた。 教養全職の名前を記した氏 刻む会代表らが除事し、黙 に日本語と韓国語の選集文 左右に建立。その前列に犠 の碑で本(高さ谷では)を とう。参列者一人ひとわか 会引き揚げ、指国に宏麗出 っぱい。(今後は)適骨

長生炭鉱事故 宇部で除幕、水没から71年 追悼の碑

人、朝鮮人作業員計18 行われ、国内外の関係者約第2次世界大戦中、日本 は7-日、追悼碑の除幕式が

3人が犠牲になった長生 200人が祈りをささげ 事故は1942年2月3 代表)が、悲劇を生みな場 歴史に刻む会」(山口武信 の日韓友好の願いを込めよ 主婦らでつくる市民団体 去の反省・謝罪と未来志向 「長生炭鉱の"水赤常"を 避弊時は、元高校教師や

年を迎えた。炭鉱酵母への 事 炭鉱水役事故から3日で引 た。 宇宙市床波の床波線器前で一日に発生し、

海底的道が視しつと計画。夢念で用地(約

約70年がかりで実現した。 3-0平方は)を取得し

殿市団も含め次々と献

いので 一歩。両国はよそも近

による法要があり、 | 相互理解に向けての値

ピーヤと呼ばれる始鉱の

し、筒状のコンクリート製体気・排水筒をイメージ

ş だった。 水した。 犠牲者 185人の そ人が朝鮮人労働

「効準は長がった。(建立一歩だ」と話した。 来たら」、山口代表(お)は「は)日韓の相互理解の第

2013年2月3日(日)宇部日報

長生炭鉱の悲劇を後世に

|投鉱で水の事故が起き||模した日本人と韓国・ 、野中隆三郎医師(野|で、過去10年で魚増し 住宅が並ぶ一角にあ 幕式が無地で聞かれ 運抜や関係者になり 名前が入った温極調が が犠牲者の英様を行 施設は床被一丁目の コンクリート教育 (選索口)



適体時に献花する遺族ら(床被1丁目で)

歴史に刻む会、追悼碑除幕

組みで、床波像得近く「台による道像文が刻ま」を着けた山口代表(31) |金揚げられて 武信代表)などの取り「には残び会と韓国滅散」余り。施設の建立にこ一者だった。犠牲者は引 を歴史に刻む会(山口 られた。ステージ後方 刻む会の発足から効率 が朝鮮半島からの労働する長生改鉱の水非常 と犠牲者の名前が納め それだけだと語った。なった。このうち7利 史を後世に伝えようと | が立ち、中央に転花台 | いたい。 漢族の願いは し、 ―83人が犠牲にてから打年。 正しい歴 | 朝鮮人犠牲者の追儺碑 | げ、祖国に帰してもら | 合一きの抗治で発生 侵害の取り組みに爆躍 底」があった。 している。暗い海の底 同規鉱での事故は

長(2)は(長い間) した機関会の金亨後した。 「キム・ビョンで、」 3、建立委員会など間 朗読期 「アポジは海の「胸が縮かった。刻む」いた。遺居による証言 機構ができて、 本当に移して迫傾集念頭 この後、金種をシル

ىلە 長生炭鉱事故

日、現代で行われた。韓国の「シートを突した」、 本党(場合など、東洋を経り、 ・ 日、現代で行われた。韓国の「シートを突した」、 一、 は善文、全国を表した大利、 ・ は、全国の「大学の」、 一 は、日本のでいる。
・ 「本学の書の、教育の書館では、 「本学の書の、 「本学の書の 「本学の書の、 「本学の、 「本学の、

四の遺放ら約30人を含む約 2分、直体では)2本と版 とを含めて約1320万 総事業費は土地購入費な

の客付で建立にこぎ着け 得を機に追悼碑建立委員 を立ち上げ、市民有志ら ら碑建設を目指している 円。会は30年前の設立時か 2009年の用地取

100

が朝鮮半島出身者。犠牲者 は他の底に観ったままで、 月20日に極生。1908人が 本世事的は1047年

うに仲良くしたい」と完成 み合うことなく、兄弟のよの相互相解の第一歩。いが 山口代表は「建立が日韓

2013年2月3日(日) |密度させたい。これまでも が、刻む会が時を建立して やもやした気持ちがあった 韓国激集会の金平条代表は くれて感激でいっぱい」と 「護骨を引き上げて祖国に

日、宇能市 日、宇能市 完成した追悼呼に献花して した理は自を組めた。

宇部、30人参列し除幕式 一神が完成

- 8 -

参加者の感想

○感謝をこめて

許光茂(ホ・クァンモ)さん

被害調査及び国外強制動員犠牲者等

対日抗争期強制動員

支援委員会 調査1課長

して過 た。 と思う。 のことを知 からないで済む とって強制動員はまだ終 どうしょうも出来ない遺 族がおり、さらに肉親は見つかったものの、 だに帰ってこない肉親を捜し らない、 前 のなかで起きたのである。 ら出来ないことが、 の痕跡を目撃した。 いたる所で行なわれ ん見て廻ることが出来た。戦時中とは言え、 らの協力を得て、 のことだ、 動 T 私は多くの 員を調 ジア・ というかも知れない。 のことでは 私もこの べってい 査し 太平洋戦争期における朝 祖先がやったことだから分か 日本の 問 してから、 る人は 問題では 仕事を始める前に 強 今では、とても想像 制動 な た虐待や非人道的行為 実にこの日本という国 市 そん のだ。 な わってい 族もいる。 民団体や研究者 すでに八 員 もう七〇 \mathcal{O} なに多くない 続けている家 現場をたくさ だから、 しかし し な 年 カュ 彼らに)年もの -が経 鮮 人 決 未 す カ 強 分 0

> る。 ず 残したいという、本当に日本を愛する真 を、「追悼碑」建立でもって実現したので か から生じたことだから、 ていたのである。 のことを体 い。「刻む会」のこの第一歩が、 っと見守りたい。 せることを信じながら、 頭が上がらない。 を歴史に刻む会」はとっくの 験 Ĺ 実践的 そして、 正しい歴史を後世 が運 尚更敬意を表 皆さんの活 とうとうその 動 ぞも 日本中を轟 開 前 にこ 動 始 た を 12 実

○感動した朗読劇「アボジは海の底」

日本とコリアを結ぶ会 代表

右 京 働 前 その手前 ピーヤを模した二本の碑が 鮮 て左側に 側に 合唱団の「アリラン」の合唱が響くな 午前 者に依存 人犠牲者 が並ぶ。 . 一月 中 0) の除幕式。 「強制連行韓国 その こであ 銘板には一八三名の犠牲者 本人犠牲 していたかを示 ŋ, 四分の三 当時、 者」 東京から駆けつけた東 の文字が刻まれ (一三六名) 朝鮮 表 L てい ñ かに 人犠 た。 朝 性者 向 鮮 が \mathcal{O} カュ カコ 人 名 労 朝

> ねた出 てに、 長 関釜連絡船 V 日 がリアルに 過 た。 の仕事を終えた後 酷 生炭鉱の 『な労働 水没事故で命を奪わ 演者に惜 を強 表現された。 寮 (興安丸)の船 では しみのない V 5 タ ń つ部 た。 懸命に稽古を積み重 この 底に押 屋 そし 拍手が会場 れ 12 É てい 詰 て挙句 \mathcal{O} し込ま 8 い た め に くった経 込ま \mathcal{O} 果

ず調査をすべきであろう。 道 思った。 心がある」限り消し去ることはできな ス 0 を、 課題となるだろう。 歴史の タ 長 1 生炭鉱 政府 トを切ろうとしている。 それにしても、 真 、実は消そうとしても は遺骨収 0 歴 史的 集の な追悼碑 ピ] 遺骨 可 ヤの 能 建 \mathcal{O} 性 下の を含め 収集が今後 立. 「人間 は 海 新 たな 底 に 1 良 ま 坑



にそうだった。ところが、「長生炭鉱

鮮

の若者を理不尽に狩り立てていった事

実

続

き、

読

脚本

広島·

友

(好さん)

が

あ

午後から

「刻む会」・韓国

遺族会の挨拶に

0

た。

日

本

の劇

植民地

支配当時

日本

人が

朗読劇のワンシーン

○朗読劇「アボジは海の底」を見て 大和裕美子さん

長生炭鉱の"水非常』を歴史に刻む会

は、 家族はどれほど悲しかっただろうと・・・。 の地で亡くなった無念さ、そして残された 思っていた家族との再会を果たせずに異国 きました。 懸けて働いた気持ちが痛いほどに伝わって もかかわらず故郷で待つ家族のために命を かれていた過酷 ときでした。 え、 だいたときは、大変光栄に思いました。 海の底」を韓国語に翻訳作業のお話をい 事務局長さまから追悼集会での「アボジは やはり除幕式は大変感慨深いものでした。 になりました。しかしそれにもかかわらず、 したので、 のほんの一部に過ぎません。 歴史からすれば、私が関わっているのはそ れました。二〇年以上に及ぶ 先生にお会いしてから四年余りの歳月が 一一年九月からソウルに留学してしまいま まだまだ勉強中の身でありながら、 二〇〇八年一一月に すばらしい演技と演出の朗読劇を見た 本当に光栄なことだったと実感したの 事故のために、 定例会議にも出席できないよう 当時の朝鮮人炭鉱労働者が な労働状況 「刻む会」代表山 それほどまでに そしてそれに その上、二〇 「刻む会」 小畑 た 置 \mathcal{O} 流 ٧١

> に、 数多くいらっしゃったと思います。 なった方々のことを深く心に刻んでいきた 改めてそのような思いがよぎりました。 でもそれ以外で亡くなられた方々もたくさ た一八三人の方々のことを思っていました。 でしょうか。 病気で亡くなった方も多かったのではな うに過酷な労働を強いられた状況ですから、 水没事故以外の原因で亡くなられた方々も 劇に出ていた「東柱」という人物のように、 しやすいことではありましたが、 んいたでしょう。考えてみれば容易に推 いと思います。 二度とこのようなことを起こさないため 平成育ちの私もこの長生炭鉱で犠牲に いままでは事故で亡くなられ 劇を見て あ の よ 測

〇犠牲者追悼碑除幕式と追悼集会に参 加して

塚田勲さん・惠子さん

 ∇

二月一八日(月)

朗読劇感謝会

犠牲者を追悼する碑が完成した今年は でお参りしたいと思っていまし 東久留米市

た。

私たちは山

口市

に住む妹夫婦の

車

ぜひ碑の前

乗して四人で犠牲者追悼碑の除幕式

は

「強制連行韓国

朝鮮人犠牲者」

右側 左側

メートルぐらいの間隔で建てられ

しました。

ピーヤを模した円筒

が二本、

八に参加

《刻む会の活動報告》

※前回発行以降

▽一二月二〇日(木) 事務局会議

月 一五日(火) 富川市中学生放課後

 ∇

も達 アカデミー(韓国)の子ど 長生のフィールドワ

一月一五日(火) 事務局会議 ク受け入れ

 ∇

 ∇ 二月 二日(土) 水没事故犠牲者追悼 式・除幕式及び追悼集会

二月 日日日 遺族による現地調査

 ∇

二月 九日(土) 朝鮮人強制連行真相 遺族との交流会

 ∇

調査団全国集会(東京

にて報告

 ∇ 二月二〇日(水) 事務局会議



委員 当の 他 2 したということでし ながら献花 創 朝 は 木 \mathcal{O} 氏 札 鮮 献 追悼に (会>の 名 改 花 日 が 人 لح というの 名 台 納 本 に 兀 8 人 尽力で多く しました。 は ょ 6 七 は る 性者」 なら れ 名 犠 てい 牲者 ŧ H \mathcal{O} な 日 本 あ と刻 名 ます。 り 本 八三 \mathcal{O} (韓国 \mathcal{O} 方 この 申 方 ま 0) が 名 L 朝 \mathcal{O} れ 政府〈真 方たち 朝 訳 鮮 名 . T 鮮 人 前 な 三六 名 名 \mathcal{O} ま 11 を す。 が 相 لح に 中 思 そ 判 調 は に そ 明 杳 本 \mathcal{O} は 11 た

県

碑

会社 会長 〇名 から 同 W りを禁じえませ り せ 郷 父さんたち、 に刻むことが 悼 水 と隠 ŕ ん。 体 非 と位置づ 0 \mathcal{O} 今 「で追 在 ż 地 言 年 をめざす上でとても重要だと思 0 そして、 (T) 金亨 B そ 葉 日 は L V 12 帰 'n 悼 遺 何 $\bar{\mathcal{O}}$ \mathcal{O} を聞 東 追 けること 方 0 日 洙 式 方 族 す が ため どうか 匝 の方が 責任も 今日 は が できました。 悼 (+ 許さ きな · 来れ んでした。 碑 名 行 ロからは ア が 71 ム \mathcal{O} わ が ば本 カン 安ら 参加 韓 \mathcal{O} れ 取ろうとし が 建 • れ るべ 近 5 ま 国 な 立 ヒ 平和な 当に らる努 玥 お父さん かに でこ 彐 さ カュ L きでは そし た。 代 5 海 ン れ 史の 安ら 分 眠 0 ス \mathcal{O} 0 て、 東 な 大 ŧ 底 惨 韓 六 0 総 ハアジ 惨 借 たちを故 事 勢 中 てくださ に さ な か 玉 名 政 事 に 眠 な W 遺 約 11 きち ま لح 府 を お 4 る 歴 \mathcal{O} 族 京 怒 ず ŧ お 史 会 共 B 服 追 都

た。

ことを も報 でし 場 \mathcal{O} 願 \mathcal{O} \mathcal{O} 建 方と日 面 理 立 刻 い た。 今 願 を メ 告 解 \mathcal{O} む 想 3 後] 経 11 Þ 私ども ま 像 本 協 1 n 渦 \mathcal{O} Ĺ 緷 副 L 人 ル ま 力 \mathcal{O} た。 遺 動 \mathcal{O} ī が 説 代 た そ 族 ŧ 12 間 な 明 表 ح \mathcal{O} \mathcal{O} 取 隔 が か が \mathcal{O} 日 方 \mathcal{O} ŋ が な あ 内 碑 徐 岡 が 組 最 カコ \mathcal{O} n さ 握 \mathcal{O} 4 Þ 後 得 にこ に た 6 日 手 前 宇 W する、 縮 Ł で 11 n 部 カコ 朝 とい 早 本 ま な 市 5 ふるこ カコ B 鮮 \mathcal{O} い は そ j 5 人 追 追 木 Ш 遺 お W 悼 難 П

碑 さ

を

な 族 話

され なさん た で過 課 ま や悲惨な を す できませ 11 る字 る迫 目 ま 題 L えまし た。 酷 に 0 後 当 から 向 部 真 が な 労働 た た。 カ \mathcal{O} 事 朗 市 W ŋ で 演 故 読 \mathcal{O} 民 0 れ É 安全対 7 技 を 劇 追 か \mathcal{O} L 0 多く た。 力を に 強 6 あ 悼集会 ア ŧ りさま 1 あ 策 遺 た \mathcal{O} 動 5 ボ わ 骨 1 4 \mathcal{O} \mathcal{O} れ を ジ で など一 か さ 惨 涙 た朝 無 は は せ \mathcal{O} 事 W て 引 を 視 海 を忘 き 抑 宇 勇 W 鮮 L \mathcal{O} 気づ 揚 え た 底 \mathcal{O} 時 人 部 げげ 共 る 間 0 長 n 市 とこと 生炭 を な け 同 ま 苦 余 民 تنط 6 لح \mathcal{O} に L 上 1 \mathcal{O} が 演 力 わ 4 鉱 7

待ち望 6 で 1 た 追 悼 碑



した木 人犠 二本 ŧ Y L 刻 む会 牲者 た。 右 0 は 追 の碑 日本 願 が を 悼 0 0 収 碑 人犠 碑 追 め は 6 込 合 は 悼文と遺 真ん中に ピ め 牲 ħ 1 て て ヤ で n 0 来 ŧ 碑 族 は 形 つ。 す。 会 全員の ま を 左 模 国 弔 後 は 名前 韓 L 辞 て を 国 て 側 超 を Ż 朝 き 刻 15 を ١V て 鮮 ま た 4 は記

○アボジは海の底

条会に参加して--長生炭鉱水没事故七一 周年犧 牲者追悼

吉栁順一さん

NPO法人無窮花の会

善、

在日コリアンの人権と権利を守って

親

くため頑張りましょう。

悼集会、 * を歴史に刻む会とは が 0 遺族の家族を含め一〇〇 ってきました。 から交流がありそれぞれ ました。 会から私を含め四名が参加させていただき 牲者」の 二〇一三年二月二日多くの人々 懸案であった「長生炭鉱水没 れました。 があって、 私たちの 追悼碑完成記念祝賀会に 追悼碑が完成 当日 韓国式 会と長生炭鉱 は 名を優に超える方 0 前裵理事 除幕式に 「チェサ」で追悼 活 その除 動 \mathcal{O} \mathcal{O} ر ص は 交流 長 私 幕 "水非常 無式と追 協 . の 事 を行 故 力に $\tilde{\mathcal{O}}$ \mathcal{O} 代

被害者 演じられ くては 届きました。 決意が示されていました。 た人々を追悼するようになってお 追悼碑は 殿と日韓 会場の の二つがあ いけな 朗読 私もまた自ら 隅々で嗚咽する声 劇 日 韓国 劇 V では 朝の交流 過過 ア b, 朝鮮人被害者と日本 去の 私た ボジ 共に歴史に奔流され 0 真 5 は 親善を図 実実」 運 引き続 海 動 \mathcal{O} 底 が カコ が 赤 パく追悼: 改めて向 つて 私 \mathcal{O} が 耳 歴 上 < 史 な 溜 集

> うさまでした。これからも過去 んと連帯し 求 ています。 カ かられ V い合う決意をしたところです。 合いながら、 ますが、 これまでのご活動本当にごくろ て活動を進めて参りたいと考え 碑 維持管理 共に日: 私たち無窮花 韓 息長 日 :朝の の会 の真実に 友好 活 も皆さ 動

〇七 一年目のレクイエム 長生炭鉱水没事故犠牲者追 ・追悼集会に参加して

「悪魔の飽食」をうたう東京合唱団 団長

岩瀬 三郎さん

二〇一二年二月五日

七〇周

年

0 追

悼

た。 まりでした。 う合唱コンサートを聴いたところからが というテーマで、 皆さんとの交流 玉 一○月二七日「隣人と友に~隣人と共に~」 がとても近く感じられるコンサー 玉 縁は異なもの・・・と申します。宇部 の金学権先生の自作曲が披露され 池辺晋一郎 のきっかけは、二〇〇七 アジアの平和と共生を願 先生、 林光先生 年

生ご自身の指揮で聴き、 長生炭鉱 海 \mathcal{O} 墓 標 水没事故 の演 を題 奏も作曲 を材に その後私たちの した女 された池辺先 声

曲

くらい り、 唱 団で「海 今日に至るまで以 0 が深め 墓 られていきました。 演 下のように不思議 奏曲 目として決

が

二〇一一年一月 二〇一〇年一二月~ に一通の 史に刻む会」の 手紙 を出 小畑事 長生炭鉱 海の墓標レッスン開 務 局長さん宛 "水非常" 唐突 を 歴

二〇一一年六月八日 宇部緑橋教会を ・する 訪問 平 田 I事務局1 関係者の方に 長と初 にお会 \otimes

二〇一一年九月二日 有志で長生炭鉱 魔の飽食佐賀公演に向かう途中、 現地 曲 想を深め るため 集会で12・ 悪

二〇一二年四月三〇日 の墓標」 公演「二つのレクイエ 演奏 東京・ ム 演奏会で 大田区で自 主



「海の墓標」を合唱

2012年2月5日・70周年で

ン " 部新 部隊 席に そし 出来たかという思い \mathcal{O} 奏はここだけ 重 诗 ね して今 参 もと急きょ再演。 は Ш \mathcal{O} 式 駅 演 加するに至った次第です。 奏も粗 構 の除幕 到着後すぐに緑 口 内で、 の約 二〇一三年二月二日 と同 相 東 会場近くでとレ が 、です 穴でし 時に演奏しまし な どうに 1 たが 橋教会で、 よう八 い任務 最 人 後後 除 ツ 0 た。 スン 翌朝 を全う $\tilde{\mathcal{O}}$ 小 ア 幕 献 IJ 編 式 を 花 演 宇 成 ラ \mathcal{O}

加され 待し 高く した。 どん ます。 団皆に観 る劇に が見ても立 (運 ア そ 二〇〇人を超える大勢の方 ボジ んなに 動) たいところです。 \mathcal{O} 特にご 引き込まれるすばら 事 後 を世間 は か待ち望んでい 報道 故 てもら の追 私 を正 派 0 海 涙 遺族の方にとってはこ なセレ \mathcal{O} 人も入りこの 悼集会の 一確に 底 腺 V に伝えたことなど、 たい は は朗 捉 溢 モニー 程 え れ プロ 一でし 続 読 たことで 記を越え 大掛 であ L 演 け グラム た。 が 技 胸を熱 い 舞 ŧ 0 カコ 除 た真 台 ŋ 幕 再 たと思 V どな 朗 ょ 演 は べ 0 な 式 う。 事 E 日 を 合 ル 読 に を 期 唱 が ま 迫 劇 た 業 参 い

だった ツ パ 演 でお聴 目 夜 0 た気持ちです。 が Ł き 達 セ プショ 頂 成されたと喜び 遇 い ごでし た澄 ン で 田 私たちも二 様 は ご夫妻と隣 悪 0) 魔 報 \mathcal{O} 告 飽 € 口 万 食 0 あ \mathcal{O} 合 佐 ŋ 力 わ 賀 レ ホ せ 八 ツ

引

き続き残された諸

課

題

に

向

カ

わ

れると

させ で、 そ لح \mathcal{O} \mathcal{O} す ス のご面 (T) 太鼓や が 内を伝えることが ン て頂 内 合 で 途中で帰るのが心残りな思い だ 力 幀 きま ンパを呼び れ 会 寸 ₽. 員 \mathcal{O} (民謡) が 叶 L 0 た。 大切 踊 V, ŋ など 涙を誘 はじ 劇作 な志を合唱 出来まし カゝ け、 め 飛 家 う ささやか 和 び \mathcal{O} 入り た。 舞 B 広 台 カゝ 島 寸 な でした。 Ł 宴 名 \mathcal{O} 友 雰囲 父好さん 熱 で添 は あ な 韓 ŋ 1 額 気 胸 玉 で



レセプションの様子 全員で手をつないで アリランを歌いながら踊る

とつの だ 路 うした歴 ま 飾 ながら シンフ まだ続くような予感がしま L た事 友情 オ 二 | は 題 史 七 の 年 大 /変貴 終 事 実を 別 iŀ. 〇月二七 ホ 重 れ 符 な が を 知 ル K た 財 打てる思 り 出 産 V 日 今 回 で、 結 向 台 す。 び 風 Iでやっ たことでこ 0 11 0 きが 、です。 \mathcal{O} 最 絆 中 لح は 出 遠 S 葛 ま 来

> 様に心 思 たく存じま 地 運 L よう。 営も 道 い 、ますが な活 様 カュ 5 動 お Þ を続けてこら なご苦労の連 感 疲 謝 n 様 0 0 でし 日 気 が持ち [を迎 た。 を敬 続 えるため れ まし そ で あっ 意を申し L た多く て 日 たことで 「会」 頃 \mathcal{O} 上 か b 0

い占めて帰路につきました。翌朝駅の売店で、山口新聞を参加者分買

〇「アリラン」の歌声とともに

伊田恵津子さん

ると、 歌うことで 思 た、 む会」の皆様に 私たち八人皆笑顔 とっては必 潰 周 11 は の底に放置 、 と 向 熱心 年の ました。 い 꽢 族 前 返 日 の皆様 朗 夜、 水没 か 読 は 雨 劇 期 い は ア (午後 やり まし 待以 要な 言され 本降 私た 相当 に思 リランの 事 ア 故 た。 すがだっ . 感 な 上に 5 ボジは V たまま りになってい が 犠 \mathcal{O} 悪魔の飽食」をうたう東京合唱 をは 朗 謝 高 V で 牲 刻 者 を与えて下さっ 練習後に緑 読 い 前 た 劇 レ 海 追 せ \mathcal{O} 追 短 日 々 たかもし、 لح るに 犠 [悼 べ 教 0 悼 は お応えしたい 会の 生集会もな 本当に 曲 ル 底 碑 天 牲者と、 は、 とい ま でも精 除 気 幕式 が好 じた。 方 れません。 橋教会を出 \mathcal{O} つから 、素晴 市 冷た う 私たちに の会場 その た 転 お 民 杯に لح 劇 伺 V 6 話 七 刻 を 寸 海 13

で共演したいです。) く、機会があれば、合唱団も「海の墓標

うも での 感謝 るチ まし 花台 は ŋ 席 じた場 くださったこと、 添 決 ゆ ラえに た。 わ エ のです。 お近くのご遺族 Ò 年 て忘れ ť 族会 サの様子を、 がが 7 せて頂けたことなど、 前 間 黙想 後 1 \mathcal{O} 事務局 ます。 近に拝見でき、 \mathcal{O} 七 t 壁 変し、 \mathcal{O} (追 時 $\overline{\mathcal{O}}$ 長 青 追 恒 そして、 年 \mathcal{O} 心 に留 申し 空の 私た 碑) (T) 0 悼文を見守 Oたくさん 孫 方 時 と記 鳳秀さん 訳ないよう Ł ち め Þ 午後の 7 ٤ が 0 随 とて 遺族 歌 声 名 0 分と広 ご遺 を合 うア 0 札 参 カゝ て . の i自 \mathcal{O} 集 ね \mathcal{O} 心 ば 悼 嬉 な 族 わ IJ お あ 者 集 に É と思 発 に せ る لح が 会 ょ 寄 て 献



除幕式で「アリラン」を歌う 東京合唱団の皆さん

〇遺族の思いを受けとめて

上部 哲生さん お生さん 上表生炭鉱水没事故71周年犠牲者追悼

強制連行を考える会事務局長

き、 性者」 同 と追悼集会が行われることを、 きまし って完成 以 長生炭 会 来 私を含め二名が筑豊 0 Ō 鉱 副 0) 念願 追悼 代 \mathcal{O} 【表を務り で //水非 一碑が、 あ った、 8 一三年二 常』を歴史に刻 る内 多くの 「長生炭鉱水 か 岡 月二 . Б 貞雄さ 人 参加 Þ 日 友 \mathcal{O} のむ会結 さ 人で 没 W 協 除 事 せ か 力 6 あ 幕 7 故

式よ犠

成

る

聞

頂

りま た犠 在 に 宇部 人 住 海 11 思 ŧ \mathcal{O} ĭ から 牲 在 た 者 市 \mathcal{O} 一の床波 が 吹き寄 が 日 追 八で会場 伝 \mathcal{O} 悼 わってきました。 潰 碑 韓 せる 族 玉 Ò 漁 港 が 兀 側 除 寒 幕 近 埋 名含む \mathcal{O} ま 遺 風 式 < ŋ 族 が Ö は 会場 5 加 を含む わ 人 \bigcirc 月 で Þ 0 開 \mathcal{O} 人 た 0 中 約 熱 底 催 (京 で 冷 さ 気 え n

上 悼 玉 つのことに胸を突かれまし に は 碑 ず ڵ 牲 朝 突き出 献 つ手書きされた一八三枚の木札が 者 花台に一八三人の犠牲者の名前 追 人犠牲者追悼 れ て立 悼 た二本の 碑 が つ二つの 除 ぶ幕され. Ľ 碑] 追悼 t た。 た瞬 日本人犠 0 一碑に、 ように 間 つ 性者 もう は 私 は 追 韓 海

> されました。 と 彼 置 悼 て \ \ \ が 族 \mathcal{O} 11 会の た状 5 さ 建てることになっ お気持ちを尊重しようということで分 七 碑 6 か れ、 緒 ħ は との の追 年 皆さ 普 てい 況 6 坑 Ė が L 通 意思表明が (悼碑 内 かも あ W たことです。 0 り、 間 つだと思う。 で から、『自 ŧ を認める気持 現 ひ 部 未だに冷 詩 どい た。」という経 \mathcal{O} あ 点で 分た 日 ŋ, 内岡さんから、 扱 本 遺 は 1 人 た 5 L では を受け ち 日 か 族 1 \mathcal{O} Ē 会 本 海 家 L は あ \mathcal{O} \mathcal{O} 族 皆 犠 続 る 底 な \mathcal{O} 韓 説 \bar{z} 牲 け が 12 遺 れ 玉 7 放



追悼碑に収められている木札

端 午 九 しい を わ 後 発 年 ば \mathcal{O} 追 死 悼 者 頁 集会で、 韓 に 玉 犠 0) \mathcal{O} 手 牲 紙 者 遺族をお招きしてから 山 名 口 を送 武 簿 \mathcal{O} 信 付 代 したことに 部を入手 表 が 九

気持 起し、 たちは敬意と感動すら覚えます てきた誠 む会の皆さん 1 れ 本集会で二 、ます。 たように だを込め 日 本人と 実 長 生炭 路 Ę が 本 口 当に L 鉱 目 \mathcal{O} 歩 韓 7 渦 に \mathcal{O} うみに、 加 国 去 長 なります。」とご挨拶さ ロのご 害 の 水 歴史 1者の 非 道 常 遺 日 0 の 本人であ 族と交流 自 ŋ 真実 っだっ 1覚と謝 を歴 へを たと思 一史に され る私 罪 \mathcal{O} 刻

出席 寒風 た 表れと憤りを感じられて当然だと思 になって考え 前 VI 海 市 カゝ 5 長 カュ 0 \mathcal{O} 吹く ŧ 底 何 7 誰 い 、中に韓 る 0 肉 韓 変わ 人出 のに 親 れ 国 0 ば カ 46 席 潰 ; 5 玉 な 骨 来ら Ĺ 日 政 事故以来七 1本政 て 府 を つれたご 放 1 \mathcal{O} *"*朝 府 置 な 駐 鮮 広 遺 島 てい 一年 人差 状 県 総領 況 族 知 -も冷た 別 は 事 ること \mathcal{O} ま 立 事 戦 宇 が 場 \mathcal{O}

るた 史の りた にご苦労さまでし る会も皆さんと連帯 が 求 今後 対親善を かめら 真実に と思 共 追 倬 れ なますが 進 向 碑 頏 ・ます。 き合 : の維 め ŋ た。 É 持 在 い これ 私たち なが 日 して活動 管 コ <u>څ</u> リア まで 理 6 れ カ 強 等、 を進 6 \mathcal{O} 制 日 活 息長 \mathcal{O} 韓 ŧ 連 やめて 人権 過 動 行 日 を 去 l, 考え 本当 ま 朝 \mathcal{O} 活 歴 動

〇これから一年生の気持ちで 善兼さん

悼 念 碑 願 私 .落成ということもあって、 0 はこの 追 倬 て、 碑がやっと完成した。 長生炭鉱の 年 工 事 仕 ñ \mathcal{O} 事 るという事を "水非常" で事 進 捗 状 務 を歴史に刻む会 況 局 会 が 心 議 聞 前 配 12 に は 遺

追

席 とえに日 ころ資材が置か 族 完成していたことに感動した。 し、「工事引き渡し」の 悼 な 11 運 り、 た。 できずに 動 碑は完成するの が二〇人近く来ら の身の 今年 本 たけに見合 ハウスさん 月 れ 中 だろうか 旬 ているままで、 に 1つた立 現地 0 日 おか には、 ,と思 に 行 げだと思う。 派 これ な追 0 私たち 0 た。 7 本 子当に [悼 ŧ 見 たと L 碑 市 民 追 H S が カン

れ、 わ 孫 成 ル をぬ せた。 を機に 今年は除幕ということもあ 心 夜遅くまで二日 って から 孫 運 事務局 事 心 わざわざ前 動 ・務局 配 0 をし 長 長 引 てい は が きをするのでは 間 超 0 日 いから 多忙 刻む 行 動 会が追 我 ŋ 日 \mathcal{O} 程 が ス ケジ 家 を 遺 に 打 族 悼 5 会 来 ユ 碑 完 \mathcal{O}

情 に · 過 も受け 事 刻 烈む会結! でき去 族 前 ることなく自力で生き抜 の皆さんが 成 生 ここ数年 カゝ ま ら |---れ 相 父親 次いで亡くなられた。 \mathcal{O} 年 間 \mathcal{O} \mathcal{O} に 歳 顔 月 あ が 1 知 \mathcal{O} 11 たず て来ら 痛 5 ず ま 愛

V

n

本当に対 感激 ば かと 詫 が ら 7 日 が \mathcal{O} \mathcal{O} 愛称 たっ 釜 本に び ŧ な 代 V か 0 に わ 追 交流 山 氏 思うと、 \mathcal{O} で親 なっ てし りに ŧ たいと思う。 \mathcal{O} 追 あ が 悼 と 淖 まり 海 碑 ŧ 何 追悼 た。 まったことをご遺 碑 回 碑 辺 \mathcal{O} 深 を ま 崽 本当にすま ŧ 建 遺 に 建 カ 建て 式に いれて その 彼 族 ゎ 足を運ん 立 建 77 0 を心 た故 に ず 0 \mathcal{O} 7 奥さん ても る気気 抱 臨 中 な きた崔 人 き合 お O待 んでおら 人 つから が な ち 0 でくれ 人に 泰雄 あ 方 \bigcirc V 0 が 12 た。「日 族 糾 る 亡くな 気持ち 年 W L 弾さ て、 だ。 ħ 7 以 \mathcal{O} が (チェ Ĺ て、 高 心 カュ お ñ Ł 本 で 5 تلح 私 か \mathcal{O} 倉 0 うう待 歳 私 た テ 5 7 健 れ W た 我 人 11 お 15 彼 ゥ 月



2月3日 遺族だけの追悼

りつけ える海 二日 追悼 でい 思わ 覚えた。 追悼する場を提供できたことに深い と言って嘆いておられたご遺族に、 その姿を見て、「手を合わせる場所もない と思われるひと時を垣間見ることができ、 悼碑に向 族 0 彐 後 \mathcal{O} た。 :の場となった。これが本当のチェサ 一人が読経 れる坑口付近を見て 目 さんをはじめご遺 遺族は追悼碑 辺で犠牲 は アボジ!」 犠 かい手を合わせひざまずいて拝 日本人の 牲者にとって を唱 者に花をたむ 誰 と 叫 ŧ I え 始 を再 いないご遺族だけ]度訪 、 めて、 族は は んでおられ 地 ñ け 砂浜に頭をす 獄 皆さんも追 た。 た。 (T)] やっと 突然遺 · 感慨 た。 全 t 入 口 0 (チ カゝ を ん そ با \mathcal{O} 見

遺族側 ていきたいと思う。 集に向けて自分も ったが、 し遂げたことで運動 初 という強い思いを代弁した。 の 追悼集会では、 「遺骨を収集して故郷に連れて帰 「追悼碑建立」という大きな目 から突き付けられたと思う。 遺骨収: 集こそが 孫事務局 年生 のひとつ 本来 0) つも 長が韓国 刻む会は、 \mathcal{O} 0 りりで テ 区 切] りたい」 1標を成 遺骨]遺族 頑 りとな 7 ・だと 張 収 当 会

な労をされた小 を送りたい。 後に裏方で事務的なことを含め 加事 務局 長に 感謝とねぎら 献 的

〇朗読劇「アボジは海の底」を取り組んで 清水 秀夫さん

宇部音楽鑑賞協会 長生炭鉱の"水非常"を歴史に刻む会 事務局長

て上 依頼、 んの紹 今回 会」事 せんでした。 タート での長生炭鉱 一月一七日、 底 今回 一演す 0 介で、 務局 感動 を元に脚本が出来上がり、 の Щ しました。 朗 П ることが決まりました。 先生の原 的 会議で内 読 地元劇 物語 劇は、 その後、 な結果を想像することは 刻む会メンバ L 0 作= 岡先生から 昨年五月 作家の広島さんに脚 演劇公演の提 カン かし、 地 : 紙芝居 元劇団 その時 ーや出演者など 一日の |主宰の ア 案がさ 追 朗読劇とし 0) そして、 ゙ボ 倬 私 ジは 尼 に 集会」 できま 本を れ 崎 は 刻 海 ž te

 \mathcal{O}



役者は全てボランティア。 家自ら役者となって出演し て下さいました。

読劇が 顔合 う強い気持ちだと思います。 崎さん、 役を立てることも多く、 ことになりました。 6 ず、 本番直前の数回でした。 で、 決して順調に進 成功を予感することが充分できました。 んの本気の台詞 本の簡単な 何よりも役者の皆さんの 五. 人二役をする人もおり、 い 地元 1名が参 役者集め それから一七 わせ会を 何とか一四名の役者が集まりましたが 成功できたの 広島さんのこだわ の幾つ 読 加 行 が大変でした。 4 L か て「朗読劇 まわしに圧 合 んだわけではありません。 11 口 ました。 0 わ いせを行 は、 劇団 稽古に人が集まらず、 の 稽古を重ねましたが それでも、 みんなが揃 素 などに声をかけても 「伝えたい!」とい ~アボジは海 りの 自己紹介の 晴 結局私も出 倒されるとともに、 V 6 尼崎さんの尽力 ましたが、 演出 L 11 今回 脚 ったの 後、 そして 本 演する 0 子と尼 0 底 代 は 朗 ま 脚 16

なども加わって、 動きが を読め た舞台でした。 したい!」とい でした。 初朗 々付けら ば 演 読 出の 劇ということで、 いと思っていたのですが れ、 うみんな お二人を中 衣装が まるで台本を持っ 決まり、 \mathcal{O} 心に 熱 ただ立 がい思い い 音 たお 響、 い芝居に 0 って台本 詰 様 芝居 照明 Z ま な

やはり不安もありました。 みんなで一から創り上げ た朗 番 読劇 は 犠牲者 です が \mathcal{O}

遺族の皆さんがどのように受け止められるのは、本当にホッとして、やって良かった。涙がは、本当にホッとして、やって良かった。涙がは、本当にホッとして、ですから集会後の懇親がということでした。ですから集会後の懇親

役者の皆さんの熱演に迫力とエネルギーを感 情けなさなど…当時 の命を何と思っているのか く知っていたが、 た知人は、 を寄せて頂きました。 うことができて幸せです。 部市の歴史を語り継いでいく事業の一端を担 うですが、 今回、坑内監督役を演じた平中さんから と言ってくれました。 楽しみにしています。 「長生炭鉱の事故の経緯は何とな 当 o) 時 また、 事がよく理解できた。 の企業側の対応や ! 再演の話もあるよ 集会に来てくれ という怒りや 」との感想

てたことを本当に嬉しく思います。舞台に立たせて頂き、少しでも会のお役に立こと、そして記念すべき追悼集会で朗読劇のこと、そして記念すべき追悼集会で朗読劇の利は「刻む会」に加えて頂いてからわずか私は「刻む会」に加えて頂いてからわずか



出演者の皆さん

ありがとうございました!







日時:3月23日(土) 10時集合(12時終了予定)

集合場所:追悼碑前(宇部市床波1丁目23)

さわやかな春の日差しの中、長生炭鉱に関わる8つのポイントを回ります。

参加費無料!ぜひご参加ください。お問い合わせは事務局まで。

「長生炭鉱水没事故犠牲者追悼碑建立募金」会計報告

(2012年12月1日~13年2月21日)(円)

| | 収 | λ | | | 支 | 出 | |
|-------|------------|------------|-------|-------|-----------|------------|--------|
| 科目 | 期間実績 | 累計 | 備考 | 科目 | 期間実績 | 累計 | 備考 |
| カンパ | 5,520,887 | 14,821,809 | | 事務費 | 0 | 275,595 | |
| 物販 | 15,000 | 258,200 | | 委員会費 | 0 | 7,140 | |
| 雑収入 | 420 | 13,281 | | 土地管理費 | 0 | 1,993 | |
| コンサート | 0 | 769,037 | 加藤登紀子 | 雑支出 | 15,200 | 71220 | 手数料等 |
| 借入金 | -1,400,000 | 2,400,000 | | 建立費 | 2,300,000 | 12,189,130 | |
| 繰入金 | 0 | 1,430,000 | | 繰出金 | 0 | 1,444,870 | 刻む会会計へ |
| | | | | 税金 | 0 | 283,735 | 固定資産税 |
| | | | | | | | |
| | | | | 小計 | 2,315,200 | 14,273,683 | |
| | | | | | | | |
| | | | | 残高 | 1,821,107 | 5,418,644 | |
| 合計 | 4,136,307 | 19,692,327 | | 合計 | 4,136,307 | 19,692,327 | |

| (個人)木 | 自原加代 | 赤松仲 | 秋好美恵 | 麻野他郎 | 浅野直人 | 天宮利幸 | 李龍成 |
|-------|---------|----------|--------------|-------|---------|-------|-------|
| | 池上幸秀 | 池田奈保子 | 石田敏子 | 出穂敏恵 | 出田紀久子 | 井上洋子 | 猪股誠司 |
| | 猪股清子 | 猪股健太郎 | 今関 一夫 | 岩本乾治 | 岩本政治 | 上西創造 | 浮田正夫 |
| | 宇佐美睦朗 | 内岡貞雄② | 内岡三枝子 | 大岡勝義 | 大住共平•裕子 | 大隅督子 | 大友陽子 |
| | 大原洋子 | 岡久雄 | 岡崎絹江 | 岡田淳子 | 緒方節子 | 岡田雅宏 | 岡本愛子 |
| | 小川京子 | 加賀谷浩子 | 加藤好美 | 金澤正善 | 兼崎暉 | 兼重健一 | 神谷丹路 |
| | 姜福心 | 木岡麗賈 | 木岡万里絵 | 岸高久徳 | 金優綺 | 木村和彦 | 肝付芳寬 |
| | 木下順子•文雄 | •愛•徹•藍•夢 | 久保輝雄•正代 | 熊谷仲美 | 鍬野保雄 | 香渡清則 | 小西望 |
| | 齋藤元紹 | 斉藤秀子 | 斉藤美代子 | 坂貞子 | 笹原克彦 | 徐麻弥 | 陣内厚生 |
| | 杉山ユキコ | 鈴木澂•恭子 | 鈴木忠実 | 須原志保 | 澄田亀三郎 | 関谷陽子 | 田崎敏孝 |
| | 田崎敏孝 | 玉木節子 | 崔玉任 | 塚本勝彦 | 戸井雄二 | 鳥家治彦 | 長澤孝幸 |
| | 中島郁子 | 中島清志 | 永冨彌古 | 中林康江 | 中谷康子 | 中山貴子 | 西崎雅夫 |
| | 野村豊子 | 萩尾楯子 | 朴幸子 | 朴順子 | 浜野勝 | 浜野ミヨ子 | 原くに子 |
| | 深谷太郎 | 福島直子 | 福田富美子 | 福原孝浩 | 藤井和義② | 藤井潔 | 藤井泰子 |
| | 裵東先 | 松田一夫 | 松永和子 | 松﨑光男 | 松村勲 | 松元和也 | 真鍋みどり |
| | 三浦昇 | 森居政幸 | 森山武昭 | 安川寿之輔 | 安村モミヨ | 山田健一 | 山林計 |
| | 鑓光洋子 | 湯木洋一 | 油谷重雄 | 尹致重 | 呂聖淑 | 渡部通英 | |

(団体) アジア共同行動山口実行委員会 「悪魔の飽食」をうたう東京合唱団

宇部小野田同胞生活相談綜合センター他 4 団体 強制連行を考える会 呉 YWCA

在日大韓基督教会小倉教会 在日大韓基督教会西南基督会館

在日大韓基督教会西南地方会社会部 在日大韓基督教会総会社会委員会

在日本大韓民国婦人会山口県地方本部 在日本大韓民国民団宇部支部

在日本大韓民国民団山口県地方本部 在日本大韓民国民団飯塚支部 自治労飯塚オート労働組合

自治労飯塚市職員労働組合 自治労桂川町職員労働組合 自治労嘉麻市職員労働組合 自治労鞍手町職員労働組合 自治労福岡県遠賀川総支部 新婦人鹿野班 大韓民国 対日抗争期強制動員被害調査及び国外強制動員犠牲者等支援委員会 筑豊から世界を見る会 朝鮮総連筑豊支部 日本基督教団宇部教会 日本基督教団宇部緑橋教会 日本基督教団小郡教会 日本基督教団小野田教会 日本基督教団下松教会 日本基督教団長門教会 日本基督教団西中国教区宣教委員会社会部 日本基督教団時田教会 日本基督教団萩教会 日本基督教団防府教会 日本基督教団山口信愛教会 日本とコリアを結ぶ会 福岡県教職員組合嘉穂・飯塚・山田支部 福岡県退職教職員協会嘉穂・飯塚・山田支会 平和統一連合山口県事務局 無窮花堂友好親善の会② 新日本婦人の会宇部支部

その他匿名など 17 件。合計 177 件 (名前の後の数字は回数)

「刻む会」活動費募金協力者

(2012 年 1 月 1 日~2013 年 2 月 21 日) 小川信 松井かつみ 長澤孝幸 山内弘恵

以上、感謝をもってご報告します。

長生炭鉱水没事故 71 周年犠牲者追悼集会決算報告

| 科目 | 金額 | 備考 |
|---------|-----------|----------------|
| 会場費 | 48,890 | |
| 事務費 | 16,089 | |
| 宿泊費 | 174,000 | |
| 接待費 | 73,600 | 二次会(遺族分)•昼食•土産 |
| 遺族交通費補助 | 420,000 | |
| 現地交通費 | 95,655 | レンタカー他 |
| 朗読劇 | 83,332 | 衣装代•照明関係等、弁当、他 |
| 祝賀会 | 75,341 | |
| 雑費 | 16,432 | |
| | | |
| 合 計 | 1,003,339 | |

※71周年犠牲者追悼集会は、追悼碑建立募金とは別の「刻む会」活動費から全額支出しています。

追悼碑完成と今後について

事務局長 小畑太作

目にして漸く追悼碑が完成した。 一月九日時点で一四〇万円ほど 水非常(水没事故)から七一 「刻む会」発足から二二年

不足していた資金も、完成当日



様に心より感謝申し上げる さった市民の良心の賜物であり、 としか言いようがない。これも一重に、 には募金目標一三二〇万円を大幅に超えた。 先ずこの事を皆 お支え下 奇跡

言われたのである 碑を建てた人々の良心を踏みにじると、傲慢だと の存在であった。「刻む会」の追悼碑は、 奇しくも一九八二年に建立された「殉難者之碑」 に際しては、幾重もの困難があった。その一つが、 罪と未来への決意を刻んだ、この度の追悼碑建立 犠牲者全員の名前と、日本国の罪過に関する謝 既存の

うがあろうか。 犠牲者の慰霊への思いにある良心を誰が否定しよ き埋めとなった人々を思い続けてきたその思いや、 の真実に目を背けようとも、 人々の良心を否定する気は毛頭ない。政府が歴史 しかし我々は、当初も今も、既存の碑を建てた 四〇年間、 そこに生

あくまで当事者である。 霊」なのかどうかである。碑の意味を決めるのは、 重要なことは、当事者にとってそれが本当に「慰 しかし、そこには欠けがあったのである。 より

韓国遺族会が、はじめてその碑を見た時「二度

だ「眠れ」と言い「殉難者」と断じるその碑を見 と見たくない」と言った。果たして、犠牲者にた ことと、いずれが傲慢であろうか たくないということと、それを慰霊だと言い張る

連 行 結果、 犯格はそれを認めないというわけである。 関の協力は全く得られなかった。いわば罪過の主 れぞれに刻まれた二つの碑の間の距離は、 に、新しい追悼碑には宇部市政をはじめ、 なった次第である。 の和解へと至っていないことを現している。 したが、この遺族の声は聞き入れられることなく、 当初「刻む会」はこの碑の欠けを補うべく活動 韓国・朝鮮人犠牲者」「日本人犠牲者」とそ 現在の別の場所での新しい追悼碑の建立と 加えて、度重なる交渉をよそ 未だ真 公的機 「強制

言わざるを得ないのである。 るが、それは本来の目的に照らせば「未」完成と 従って、確かに念願の追悼碑は完成したのであ

動について話し合った。 事務局会議を開催し、 追悼集会を終えて、二月二〇日に「刻む会」は 集会の反省評価と今後の活

とした訳である。結果、 葉化した上で、そのための「方策」を列挙しよう たのであるが、 る作業に臨んだ。つまり、 策定すると共に、真の目的を目標として言葉化す 資料の収集と編纂」に対して、新たな活動方策を いが、今のところ上げられている方策は概ね次の を刻んだ追悼碑の建立 ②ピーヤの保存 ③証言: した訳ではなく、その「本当の目標」を改めて言 従来の三つの活動目標「①現地に全犠牲者の名 先述したとおり本当の目標を達成 結論には未だ至っていな 従来の目標・は達成し

> の拡充 で折衝することになると思われる 知らぬ存ぜぬを決め込んできた人々とは、 **六点である。「①遺骨等の収集と返還** ⑤現地学習の開催 ③ピーヤの保存 ④証言・資料の収集と ⑥追悼集会の開催」。 ②追悼碑 ①辺り

代表個人の名義となっている。 に所有する方途を得なければならない。 も望まれる。あわせて、追悼碑並びに土地を公的 が、民主的に選ばれたり見直されたりする仕組み 必要となろう。そして、より中心的に論議する人々 参与を促すために「会員」のある程度の明確化が 柔軟に対応していく必要がある。また、より広く 議や意思決定も、事柄に応じて、丁寧に且つ迅速・ 確認した。従来、事務局会議一本で行ってきた協 く体である「刻む会」そのものの再構築の必要を 加えて、いずれの方策にしろ、それを担ってい 現在は

願っている。 真の平和の実現を共に担って下さることを心から をするので、是非とも多くの方々に参与して頂き 新たな「刻む会」については、また改めて案内

謝し敬意を表するものである。なお、希望される となった。約四年間に亘る尊いお働きに心より感 建立という目標達成に伴い、この度解散すること ることにもなっている。 新しい「刻む会」のメンバーとして活動して下さ 終わりに、 引き続き事務局のメンバーとして、そして 犠牲者追悼碑建立委員会は、 追悼碑

